

企業名： 東亜合成

レポート名： 東亜合成グループレポート 2022

1, この会社が目指す姿が理解できるか

東亜合成グループ報告書 2022 の p8,9 に記載されている、第 1 期（基礎化学製品発展期）から始まり、第 2 期(石油化学製品発展期)、第 3 期(機能製品発展期)、第 4 期（ESG/SDGs の時代にふさわしい第 4 の柱となる製品群の開発）までの東亜合成グループの価値創造の軌跡より、東亜合成グループが今までどのように価値を創造し、今後どのように価値を創造していこうとしているかを理解することができる。

また、p14,15 の「東亜合成グループの価値創造ストーリー」より「緑豊かな地球環境」、「快適で衛生的な暮らし」、「持続的な社会の発展」、「安心・安全な社会」、「高齢者・障がい者へのバリアフリー」の 5 つの社会価値を提供することを東亜合成グループが目指していることが理解できる。

さらに、p14,15 や、p17,18 より、東亜合成グループが sustainable な社会を目指していることが理解できる。p19～21 より、二酸化炭素排出量を 2030 年までには 2013 年度から 50% 削減、2050 年までにゼロとするために様々なことを行っていることも窺える。

以上より、東亜合成グループが目指す姿を理解できるといえる。

2, この会社の競争優位性が理解できるか

p32,33 の基幹化学品事業、p34,35 ページのポリマー・オリゴマー事業、p36,37 の接着材料事業、p38,39 の高機能材料事業、p40,41 の樹脂加工製品事業の 5 つそれぞれにその事業の強み・成長機会が分かりやすく記載されている。

以上より、東亜合成グループの競争優位性を理解できるといえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

今後 10 年、20 年単位で競争優位性が保たれるかどうかについては記載されていないと感じる。コロナ禍という歴史的な出来事を乗り越えかけ、これから世界規模で大きな変化を遂

げるであろう現時点において、今後10年、20年単位でのニーズを把握することは極めて困難である。(大きな出来事がなくても10年、20年単位でのニーズを把握することは困難であるが)

しかし、p32~41のそれぞれの事業ごとの「強み・成長の機会」というところより、今後数年では競争優位性に持続性があることが窺える。例えば、ポリマー・オリゴマー事業の「アジア進出」や、接着材料事業の「東南アジア・北米における瞬間接着剤市場の拡大」、高機能材料事業の「世界的な半導体需要の拡大」、樹脂加工製品事業の「ライフサポート事業」などである。これらは今後数年で需要が著しく低下するとは考えづらいものである。

以上より、東亜合成グループの競争優位性にある程度の持続性があることが理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

P46,47に、通常の研修以外にも自律的に取り組めること制度が確立されていることが記載されており、自身のさらなるスキル向上に繋がると確信した。

また、p30,31の提案・職務発明等報奨制度より、社員が職務に関する発明・考案・意匠をすることで社員の個人に報いる制度があることが明確であり、自身の業務の活性化に繋がるとも感じた。

以上より、東亜合成グループで自身の人的資本の価値向上を達成できるといえる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

東亜合成グループの目指す姿、さらなる価値創造に向けた取り組み、人財への取り組み等が明確に理解できる報告書であり、改善余地はないと考える。